

令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 池田 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和元年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

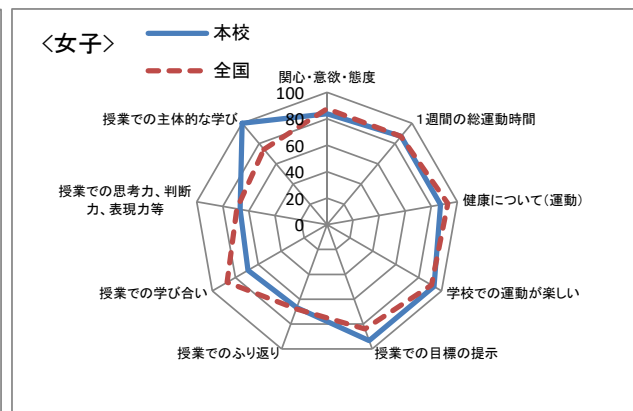
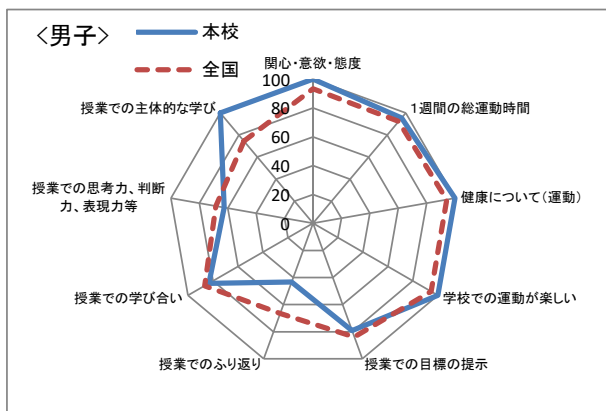
| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 16.37 | 19.80 | 33.24 | 41.74 | 50.32 | 9.42 | 151.45 | 21.61 | 53.61 |
| 本市 | 16.56 | 20.49 | 33.51 | 42.17 | 52.49 | 9.39 | 153.34 | 22.91 | 54.52 |
| 本校全国平均以上の種目 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

<女子>

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 16.09 | 18.95 | 37.62 | 40.14 | 40.79 | 9.64 | 145.68 | 13.61 | 55.59 |
| 本市 | 16.49 | 19.55 | 38.14 | 40.49 | 42.02 | 9.64 | 147.47 | 13.79 | 56.34 |
| 本校全国平均以上の種目 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

- ・ 「運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか」、「あなたにとって運動(からだを動かす遊びをふくむ)やスポーツは大切なものですか」、「体育の授業は楽しいですか」という3項目の質問に対しては、男子の肯定的回答がすべて100%であった。普段から、休み時間になると元気に声を掛け合って、元気に運動場で遊ぶ姿がよく見られる。
- ・ 学校の体育の授業以外でも、「運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを行っている。(1週間に60分以上の割合)」という質問に対しては、全国・北九州市と比較して特に女子が高い結果を得ている。本校の1校1取組の「池田運動タイム」(中休みに実施)でも、しっかりと体を動かす姿が常に見られるので、今後も継続していきたい。
- ・ 全国と比較して、ほとんどの項目において、男女の肯定的回答が同等、または上回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・ 全学年において、体育科学習の準備運動は、各学級で工夫(例えば、キッズダンス・ジャンプアップ運動等の実施)をした。内容については、体育館壁面にA3サイズの掲示物を約30種類準備をした。また、全学年のスポーツテストの全国平均の数値を拡大コピーしたものを体育館の壁面に掲示し、常に自分との比較ができるようにした。

・ 普段の体育科学習の「めあてを知ること」や「ふりかえりをする」を、毎時間毎時間、しっかりと定着させることができた。また、児童のふりかえりに対しても、教師が価値付けをしていくことができた。その結果、体育科学習を楽しみにしている児童の姿がよく見られた。

・ スポーツテストを実施する前に、全学年、調査内容や測定方法等を徹底周知し、本番の測定では、担任だけでなく、管理職や教務主任、支援加配教員等が必ず参加し、間違うことがないようにしっかりと測定を実施した。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

・ 2学期より、毎週火曜日の中休みに「スマイルタイム」を設定した。1年生から6年生までの10名程度で縦割り班を作った。主に異学年との交流を目当てにしているが、活動内容は、縄跳びやドッジビー等の体全体を使った活動をおこなっている。

・ 天気の良い日の中休みは、一校一取組として「池田運動タイム」を位置づけ、全児童の外遊びを奨励した。体を動かすことの大切さを体感させることができた。全校放送や始まりの音楽を流していたが、取組が定着すると、放送をしなくても自然と運動場に出て遊びに行く児童が増えた。

・ 年間を通して、日頃から取り組める運動(梅雨の時期や冬場に体育館でのドッジボール・冬季の長縄集会等)について、みんなでめあてを作ったり、縦割り学級で協力したりして取り組むことができた。

・ 保健学習や食育指導、様々な児童会の活動等で、自分の体力に関心をもたせ、健康に生活するためには、食事と健康以外に体力の向上が必要であることを理解させた。

・ 小中連携の一環として、中学校の保健体育科の教師に数回来校して頂き、陸上記録会に向けてのトラック競技指導をしていただいた。